

1. 日時 令和6年6月6日(木)

2. 学年・組 第3学年7組

3. 単元 Unit3 飢餓・食料問題 Action

使用教科書 英語で読んで考える時事×SDGs Cross Bridge (Ver.2)

4. 単元目標

- 飢餓・食料問題について、現状を理解することができる。
- 食糧廃棄がなぜ問題なのか、英語で説明することができる。
- 食糧廃棄問題の対応策のうちの1つである TABETE について英語で表現することができる。

5. 教材

- 英語で読んで考える時事×SDGs Cross Bridge (Ver.2)
- Vocabulary シート
- TF 問題シート
- Writing プリント

6. 教材観

本単元では、新型コロナウイルス感染症が発生したことにより、深刻な食糧不足に陥った人がある一方で、食品ロスの深刻化も問題となっていることを取り上げ、一つの取り組みとしてある会社が開発したアプリを紹介している。アプリを活用する店舗側、消費者側双方にメリットがある仕組みについて理解を進めるとともに、学習した内容だけでなく、私たちができる取り組みについて考えるきっかけを作りたい。

7. 生徒観

本クラスは、国際文化科ということもあり、1 学年時から国際問題についての基本的な知識をレポートや発表、ディスカッションなどを通して身につけている。一方で自身の考えを論理的に英語で伝える、自身の考えを英語で書き表現するということに苦手意識を持っている生徒も少なくない。また、ペアや少人数では、笑顔で間違いを恐れず話しているものの、大勢の前で話したりすることには抵抗を感じている生徒が一定数存在する。

8. 指導観

- 自分の考えや意見を論理的に伝えることができるようになるために、実用英語技能検定での面接問題を授業に取り入れることで、考えを論理的に伝えるステップを踏む。
- ペアワークを行い、自身の解答とクラスメイトの解答を比較しながら内容把握問題に取り組むことで、内容理解を深める。
- NET とのチームティーチングにより、より適切な語彙使用や音声の指導、確認を行う。

9. 単元の評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
【読むこと】 食品ロスの取り組みに関する英文を読み、その内容を理解する技能を身につけている。 【話すこと】 食品ロスの取り組みとして活用されているアプリの賛否について、教科書で学習した単語を用いて話す技能を身につけている。	【読むこと】 食品ロスの取り組みに関する英文を読み、食品ロスの現状や企業の取り組みについて、内容の概要を捉えている。 【書くこと】 食品ロスの取り組みとして活用されているアプリの賛否について、教科書で学習した表現を用いてまとめることができる。	【読むこと】 食品ロスの取り組みに関する英文を読み、食品ロスの現状や企業の取り組みについて、内容の概要を捉えようとしている。 【話すこと】 食品ロスの取り組みとして活用されているアプリの賛否について、教科書で学習した表現を用いて英語で発表しようとしている。

10. 単元の指導と評価の計画

時	■ ねらい ○ 学習内容	主な評価基準【観点】 評価方法等
第1時	■ 深刻な食糧不足の現状について、食品ロス削減の課題への取り組みについて理解し、表現する。(Unit3) ① 本文で取り上げられているフードロス、なぜ問題なのか理由を考え、予想させる。 ② 本文で使われている新出単語の意味と発音を理解する。 ③ 内容に関する英文を読み、各設問に適切に解答する。 ④ 本文の内容について、ペアで話し合うことで理解を深める。 ⑤ 食品ロス削減の取り組みに関して、どう思うか英語で意見をまとめる。	本文の内容を理解し、相手に伝えようとしている。(机間指導) 【主】 食品ロス削減の取り組みについて、意見を英語でまとめることができる。(writing プリント)【思】

	⑥ ④についてペアで意見交流を行う（ペアは数回入れ替えたのち、発表）。	
第2時	■ 日本の食品ロスの現状と食品ロス削減の取り組みである新しいサービスについて理解し、自分の意見を表現する。 ① 環境にまつわる実用英語技能検定の面接問題に取り組み、論理的に考える。 ② 本文で使われている新出単語の意味と発音を理解する。 ③ 内容に関する英文を読み、各設問に適切に解答する。 ④ 本文の内容について、ペアで話し合うことで理解を深める。 ⑤ 新しいサービスの利点、新しいサービスを使用してみたいか英語で意見をまとめる。 ⑥ ⑤についてペアで意見交流を行う（ペアは数回入れ替えたのち、発表）	本文の内容を理解し、相手に伝えようとしている。（机間指導）【主】 新しいサービスについて、意見を英語でまとめることができる。（writing プリント）【思】

11. 本時の展開

A) 本時の目標

- ペアで、トピックについて、英語で論理的に意見を伝えることができる。
- 食品ロスの取り組みに関する英文を読み、その内容についての問題に答えることができる。
- 食品ロス削減の取り組みである新しいサービスについて自分の意見をまとめ、その内容について他者と交流することができる。

B) 本時の評価基準

【書くこと】※授業終了後に提出

食品ロス削減の取り組みである新しいサービスについて、教科書を参考にして英語でまとめることができる。

【話すこと】

食品ロス削減の取り組みである新しいサービスについて、英語で発表しようとしている。

C) 本時の準備物

- TF 問題のプリント
- ライティング用プリント（新しいサービスの利点についてまとめる）
- ライティング用プリント（自身の意見を英語でまとめる）

D) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導内容及び指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
帯学習 3分	以下のトピックについて、ペアで 30 秒ずつ意見を述べ合う。 【Icebreaker question】 Some people say that we should buy environmentally friendly products even when they are more expensive. What do you think about that?	● なぜそのような考えるのか、自身の意見を論理的に伝える練習を行う。 ● 英語で話すことへの抵抗感を減らす。	与えられた話題について、主体的に英語で話そうとしている。（机間指導）【主】
導入 3分	本文内容に関わる質問をペアで話す。 【Talk with your partner in English】 One company created an application called "TABETE" to solve a food loss problem. What can we do with this application?	● 前回までの内容を振り返りながら、意見を述べさせる。	与えられた話題について、主体的に英語で話そうとしている。（机間指導）【主】
展開 39分	【知識確認】 新出単語の意味を確認し、発音する。 【内容理解】 本文 ACTION を読み、T or F の質問を解き、ペアで確認する。 答え合わせとともに、内容理解を進める。 【ライティング】 以下のトピックについてペアで質問の内容を確認後、本文の内容を参考にしながら英語で意見を書く。 What are the advantages of using TABETE for both app users and shops? Explain.	● NET のあとにつづけて発音させる。 ● 時間を指定することにより、wpm を意識して本文を読むようにする。 ● F の場合なぜ、間違っているのか根拠を示すように指示する。 ● ペアで質問内容確認を行うことで、英語で書き表現することに苦手意識を持つ生徒も取り組みやすいようにする。 ● 2 つの視点に立って書くようにそれぞれ for app	本文の内容を理解し、概要を相手に伝えることができる。（机間指導）【主】 新しいサービスについて英語で意見をまとめることができる。（writing プリント）【思】

	(For app users:) (For shops:) ◇【英語で意見交流】 以下のトピックについて、本文の内容を参考にしながら英語で意見を書く。 学習単語を最低1つは使用するよう指示する。 Do you want to use this service? Include your reasons. トピックについて英語で意見交流を行う。なお、時間があれば、ペアを変えて同様の活動を行う。	users, for shops を板書する。 ● 帯学習で行ったように、自身の意見を論理的にまとめるように声かけを行う。 ● 帯学習や導入でペアワークを行い、スムーズにペアで意見交流を行うことができるようにする。	新しいサービスについて、自身の意見を英語で発表しようとしている。(机間指導)【主】
まとめ 5分	ライティング後、数名当て、発表の機会を作る。 実際に「TABETE」を画面上で見ってもらう。 授業終了前に writing プリントを回収する。		

「観点別学習状況の評価」の判断基準の設定

評価基準	「十分満足できる」状況 (A)	「おおむね満足できる状況」(B)	「努力を要する」状況 (C) と判断した生徒への支援のてだて
書くこと	教科書や新出単語のプリント表現を活用しながら、語彙や表現が適切に使われており、50語以上で書かれている。	多少の誤りはあるが、理解に差し支えない程度の語彙や表現が使われており、50語前後で書かれている。	机間指導を行い、語彙や表現が適切に使用されているかどうか確認し、不十分であれば、例を示して支援する。
話すこと	アイコンタクトを意識しながら話している。 相手に分かりやすい音声で伝えており、内容が理解できる。	左記のどちらかを満たしていない。	左記の条件が全く満たされていない場合、机間指導の際にアイコンタクトや大きい声で話すことなど再び指示する。